

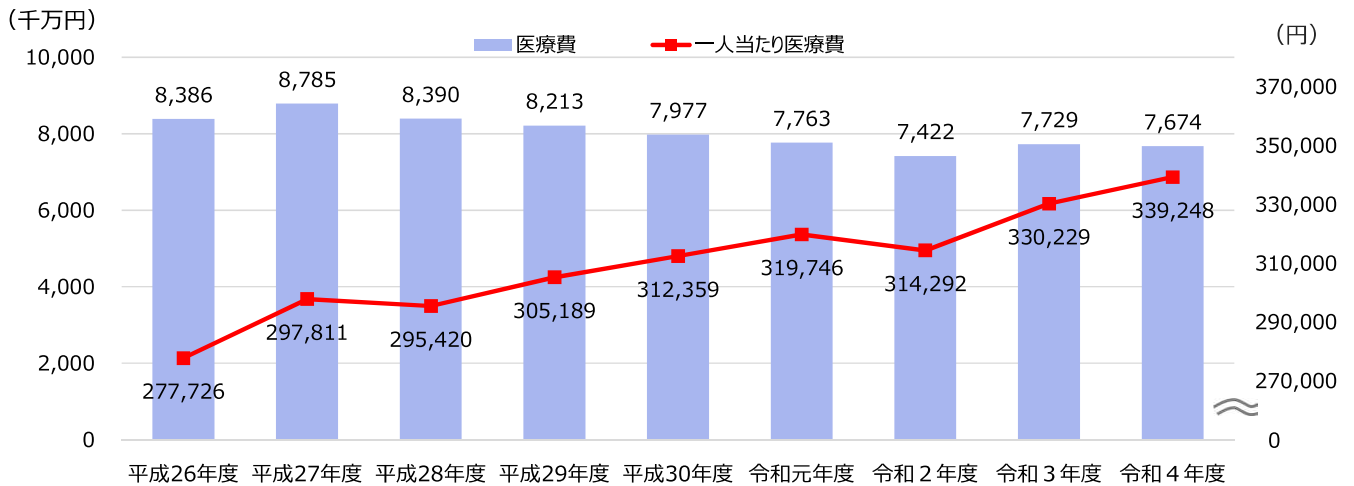
## 第3章. 健康・医療の現状

- 3-1. 医療費傾向
- 3-2. 糖尿病患者の状況
- 3-3. 人工透析患者の状況
- 3-4. 人工透析患者の併発疾患
- 3-5. 人工透析患者のeGFRと医療費の推移  
(人工透析開始年度から5年前のeGFRと医療費の変化)
- 3-6. 生活習慣病医療費と歯科受診状況

### 3-1-1. 医療費傾向《医療費総額と一人当たり医療費》

#### 医療費総額と一人当たり医療費\*

資料：KDB（医科、歯科、調剤）より



- 医療費総額は、平成27年度の高額薬剤の影響を除き、国保被保険者数の減少に伴い減少していたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大による受診控えのため、4.4%減と減少幅が大きかった。（通年2～3%減）
- 令和3年度は、令和2年度の反動で増加に転じ、令和4年度はやや減少している。
- 一人当たり医療費は経年で増加していたが、受診控えで減少した令和2年度の反動で令和3年度・令和4年度と大きく増加している。

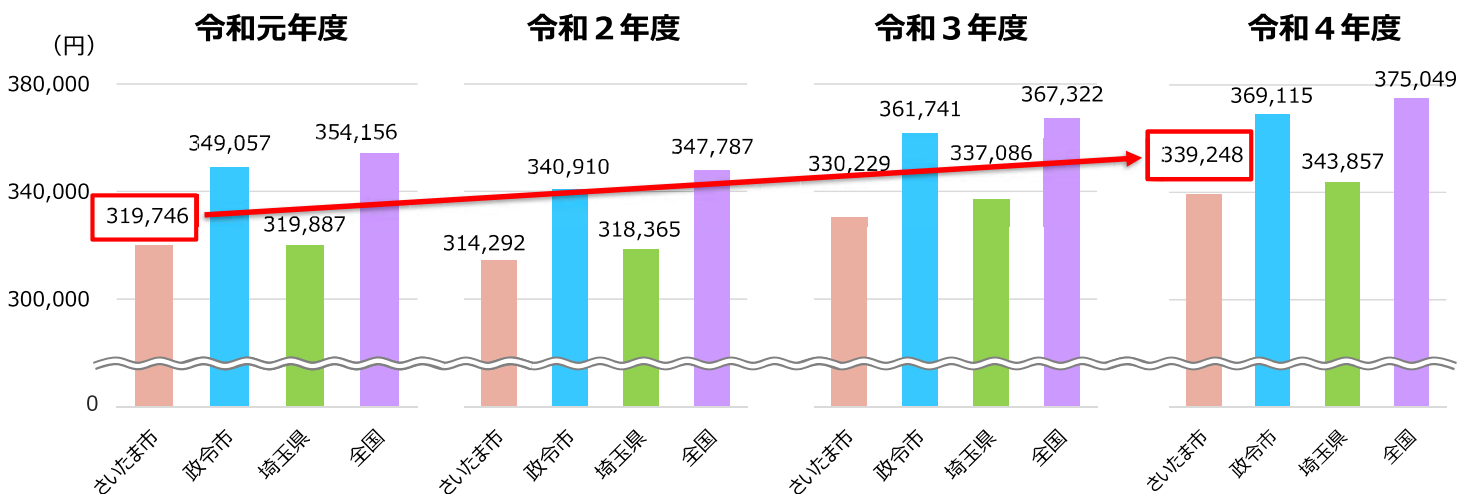
\*：一人当たり医療費は、年間医療費総額を年間平均被保険者数で除して算出した。

さいたま市 国民健康保険 保健事業実施計画（データヘルス計画） 特定健康診査等実施計画

### 3-1-2. 医療費傾向《一人当たり医療費(全国市町村国保等との比較)》

#### 一人当たり医療費\* (全国市町村国保等との比較)

資料：KDB（医科、歯科、調剤）より



- 一人当たり医療費は、新型コロナウイルス感染拡大の影響のあった令和2年度を除き、増加している。
- 政令市、埼玉県、全国と比較すると低い。

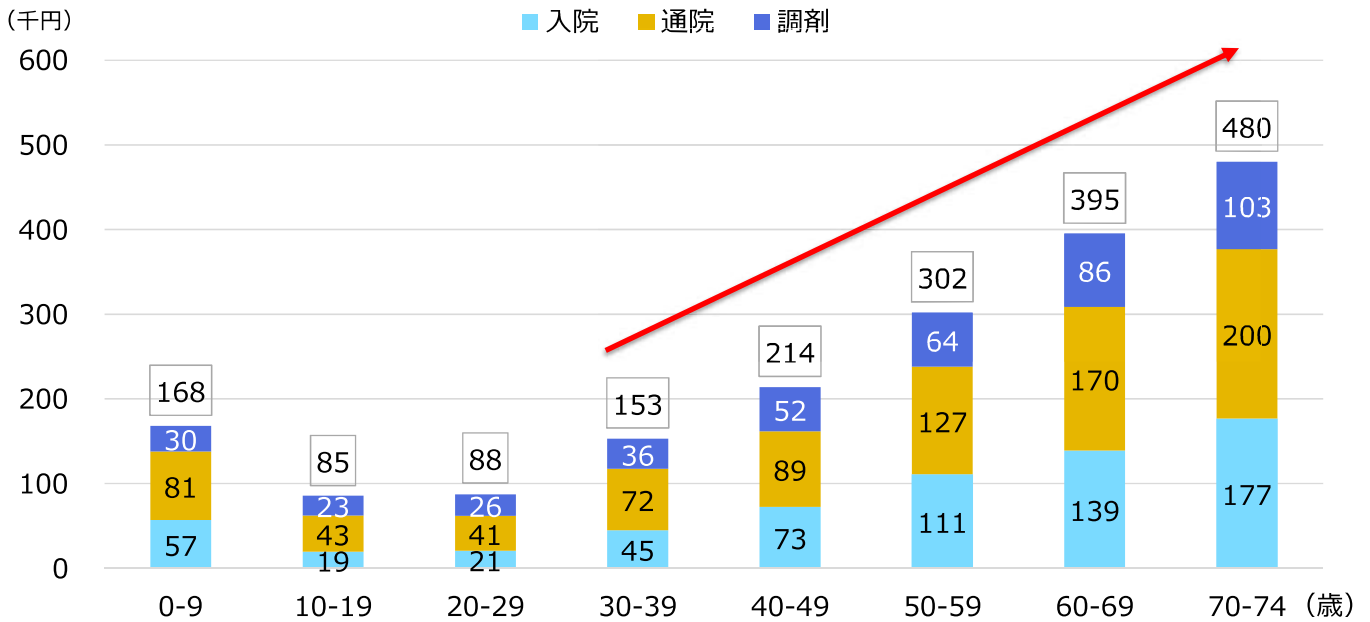
\*：一人当たり医療費は、年間医療費総額を年間平均被保険者数で除して算出した。

さいたま市 国民健康保険 保健事業実施計画（データヘルス計画） 特定健康診査等実施計画

### 3-1-3. 医療費傾向《一人当たり医療費(年代別)》

#### 一人当たり医療費\* (年代別)

資料：レセプトデータ（医科、調剤）（令和4年度）より



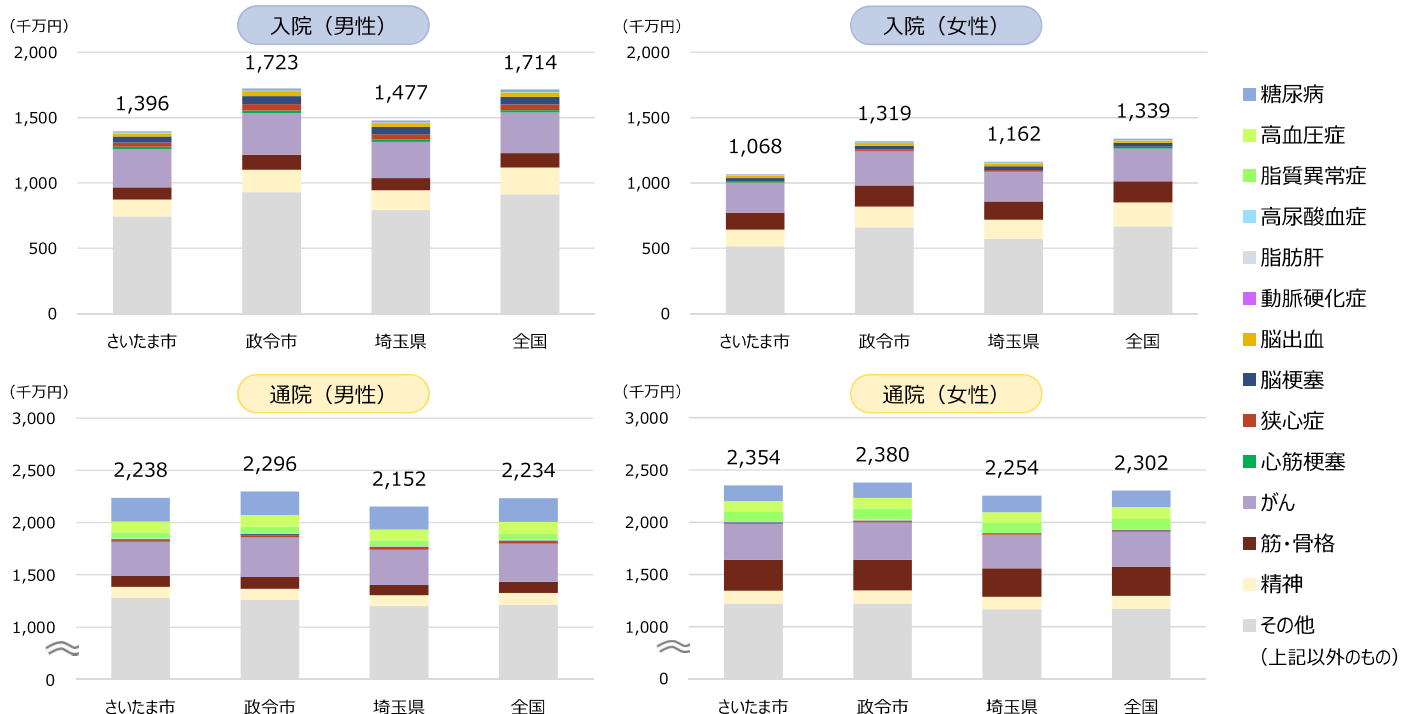
➤ 年代が上がるにつれ、一人当たり医療費は増加し、70歳以降は、20～29歳の約5.5倍である。

\*：一人当たり医療費は、年間医療費総額を年間平均被保険者数で除して算出した。

### 3-1-4. 医療費傾向《疾病別医療費(年齢調整)》

#### 疾病別医療費 (年齢調整\*)

資料：KDB（疾病別医療費分析 生活習慣病）（医科、調剤）（令和4年度）より



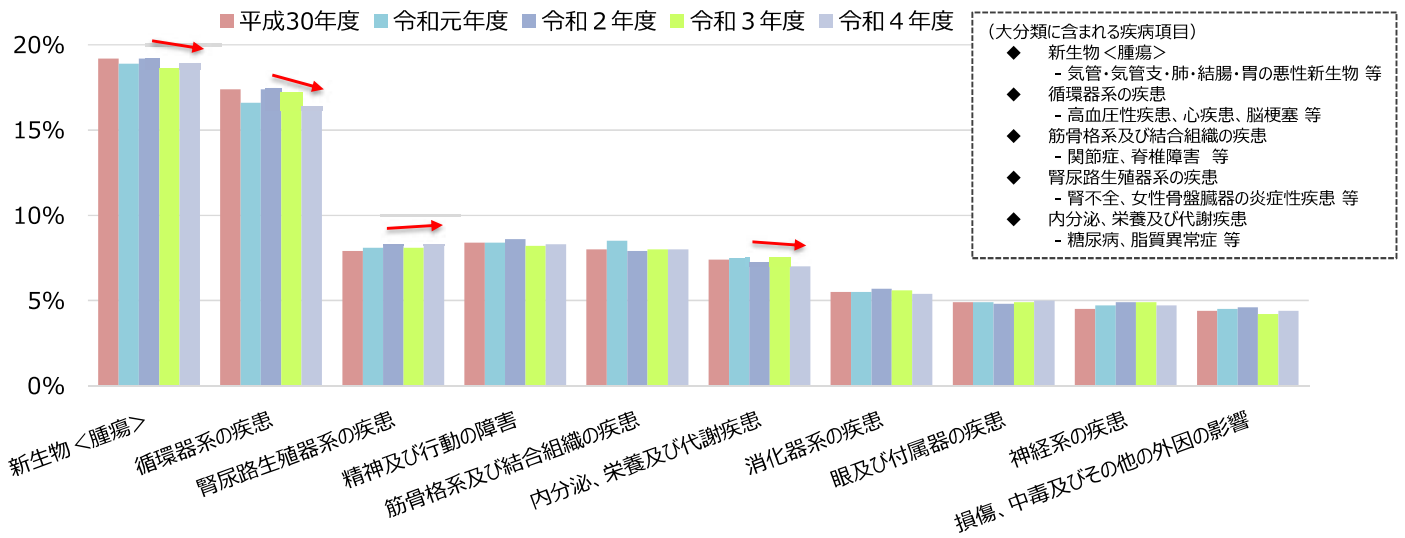
➤ 入院医療費は男女ともに政令市、埼玉県、全国より低く、通院医療費は政令市に次いで高い。

\*：政令市、埼玉県、全国の年齢構成がさいたま市と同一となるように調整した。

### 3-1-5. 医療費傾向《疾病大分類別医療費割合の推移》

#### 疾病大分類別医療費割合の推移

資料：レセプトデータ（医科）より



- 医療費は**新生物＜腫瘍＞**はやや**減少**傾向にあるが、一番**高い**。
- **循環器系の疾患**はやや**減少**しているものの、**新生物＜腫瘍＞**に**続き高い**。
- **腎尿路生殖器系の疾患**の医療費はやや**増加**傾向にある。
- **内分泌、栄養及び代謝疾患**はやや**減少**している。

### 3-1-6. 医療費傾向《50歳以上の医療費総額上位5疾病》

#### 50歳以上の上位5疾病

資料：レセプトデータ（医科）（令和4年度）より

		1位	2位	3位	4位	5位
男性	50-54歳	精神及び行動の障害	循環器系の疾患	腎尿路生殖器系の疾患	神経系の疾患	新生物＜腫瘍＞
	55-59歳	循環器系の疾患	精神及び行動の障害	腎尿路生殖器系の疾患	新生物＜腫瘍＞	内分泌、栄養及び代謝疾患
	60-64歳	循環器系の疾患	腎尿路生殖器系の疾患	新生物＜腫瘍＞	精神及び行動の障害	内分泌、栄養及び代謝疾患
	65-69歳	新生物＜腫瘍＞	循環器系の疾患	腎尿路生殖器系の疾患	内分泌、栄養及び代謝疾患	筋骨格系及び結合組織の疾患
	70-74歳	新生物＜腫瘍＞	循環器系の疾患	腎尿路生殖器系の疾患	内分泌、栄養及び代謝疾患	筋骨格系及び結合組織の疾患
女性	50-54歳	新生物＜腫瘍＞	精神及び行動の障害	神経系の疾患	循環器系の疾患	腎尿路生殖器系の疾患
	55-59歳	新生物＜腫瘍＞	精神及び行動の障害	循環器系の疾患	筋骨格系及び結合組織の疾患	腎尿路生殖器系の疾患
	60-64歳	新生物＜腫瘍＞	循環器系の疾患	筋骨格系及び結合組織の疾患	精神及び行動の障害	内分泌、栄養及び代謝疾患
	65-69歳	新生物＜腫瘍＞	循環器系の疾患	筋骨格系及び結合組織の疾患	内分泌、栄養及び代謝疾患	眼及び付属器の疾患
	70-74歳	新生物＜腫瘍＞	循環器系の疾患	筋骨格系及び結合組織の疾患	眼及び付属器の疾患	内分泌、栄養及び代謝疾患

- **男女ともに新生物＜腫瘍＞、循環器系の疾患、精神及び行動の障害**の医療費が**高い**。
- **男性は腎尿路生殖器系の疾患**が高く、**新生物＜腫瘍＞**が**年齢が上がるにつれて高くなる**。
- **女性は筋骨格系及び結合組織の疾患**が高い。
- **男女ともに内分泌、栄養及び代謝疾患**が**上位**になっている。

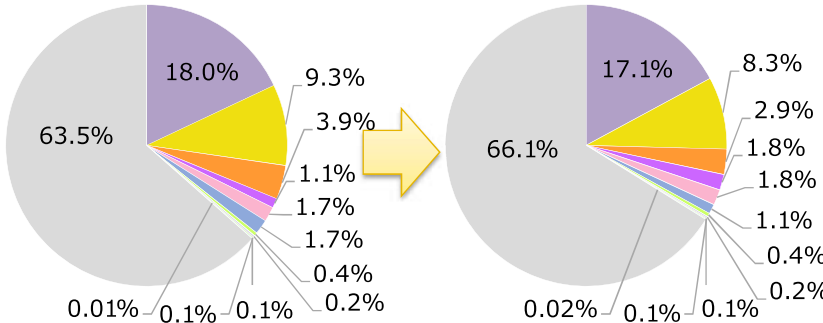
### 3-1-7. 医療費傾向《生活習慣病に関わる医療費(入院)》

#### 医科入院医療費に占める生活習慣病医療費の割合

資料：レセプトデータ（医科）より

平成28年度

令和4年度



疾患名	診療金額割合	詳細割合	金額(円)
悪性新生物	33.9%	17.1%	4,347,919,705
脳血管疾患		8.3%	2,094,222,130
虚血性心疾患		2.9%	728,407,817
動脈疾患		1.8%	468,737,269
腎不全		1.8%	459,288,836
糖尿病		1.1%	285,334,042
高血圧性疾患		0.4%	102,906,195
肝疾患		0.2%	49,942,252
COPD		0.1%	31,282,704
脂質異常症		0.1%	22,745,064
高尿酸血症及び痛風		0.02%	6,274,558
その他疾患		66.1%	
合計	100%		25,370,985,920

※疾病名が不明のレセプトデータを除いた医科入院医療費に占める生活習慣病医療費の割合を表している。  
レセプトデータに入力されている疾病名に基づいており、実際には複数の疾病の医療費が含まれている可能性がある。  
※医科入院医療費に占める生活習慣病医療費の割合は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計と一致しないことがある。

- 医療費総額のうち、生活習慣病関連の疾患が占める割合は36.5%から**33.9%に減少している**。
- **悪性新生物の割合が高く、脳血管疾患、虚血性心疾患と続く**。

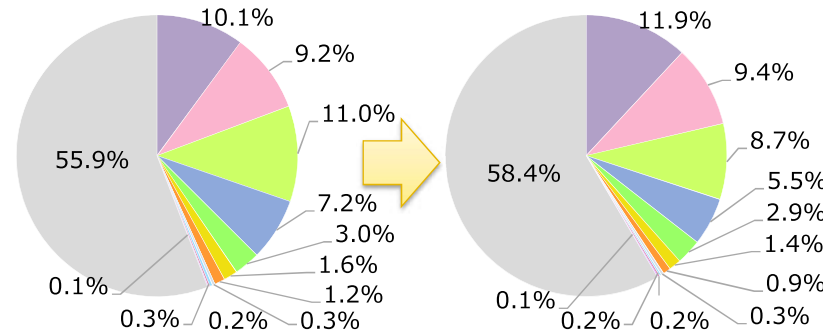
### 3-1-8. 医療費傾向《生活習慣病に関わる医療費(通院)》

#### 医科通院医療費に占める生活習慣病医療費の割合

資料：レセプトデータ（医科）より

平成28年度

令和4年度



疾患名	診療金額割合	詳細割合	金額(円)
悪性新生物	41.6%	11.9%	3,641,454,390
腎不全		9.4%	2,882,749,390
高血圧性疾患		8.7%	2,657,216,110
糖尿病		5.5%	1,686,952,400
脂質異常症		2.9%	904,447,710
脳血管疾患		1.4%	422,699,660
虚血性心疾患		0.9%	286,293,090
肝疾患		0.3%	98,149,760
高尿酸血症及び痛風		0.2%	73,076,900
COPD		0.2%	52,759,440
動脈疾患		0.1%	40,453,380
その他疾患		58.4%	
合計	100%		30,669,257,290

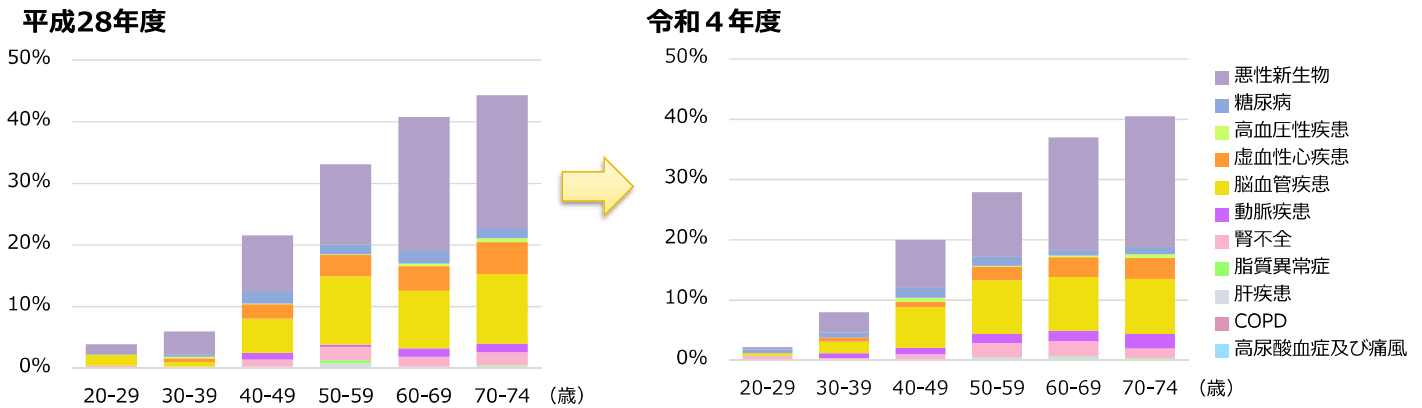
※疾病名が不明のレセプトデータを除いた医科通院医療費に占める生活習慣病医療費の割合を表している。  
レセプトデータに入力されている疾病名に基づいており、実際には複数の疾病の医療費が含まれている可能性がある。  
※医科通院医療費に占める生活習慣病医療費の割合は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計と一致しないことがある。

- 医療費総額のうち、生活習慣病関連の疾患が占める割合は44.1%から**41.6%に減少している**。
- **悪性新生物の割合が高く、腎不全、高血圧性疾患、糖尿病と続く**。

### 3-1-9. 医療費傾向《生活習慣病に関わる医療費(入院)》

#### 医科入院医療費に占める生活習慣病医療費の割合 (年代別)

資料：レセプトデータ (医科) より



	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-74歳
悪性新生物	0.4%	3.4%	8.0%	10.7%	18.7%	21.7%
糖尿病	0.6%	0.8%	1.6%	1.5%	0.9%	1.2%
高血圧性疾患	0.0%	0.0%	0.7%	0.1%	0.3%	0.6%
虚血性心疾患	0.0%	0.7%	0.9%	2.3%	3.3%	3.5%
脳血管疾患	0.4%	1.9%	6.7%	8.9%	8.9%	9.1%
動脈疾患	0.0%	0.8%	1.1%	1.5%	1.7%	2.4%
腎不全	0.7%	0.2%	0.8%	2.4%	2.5%	1.6%
脂質異常症	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%
肝疾患	0.1%	0.2%	0.2%	0.4%	0.3%	0.1%
慢性閉塞性肺疾患 (COPD)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.2%
高尿酸血症及び痛風	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
合計	2.2%	8.1%	20.0%	27.9%	37.0%	40.4%

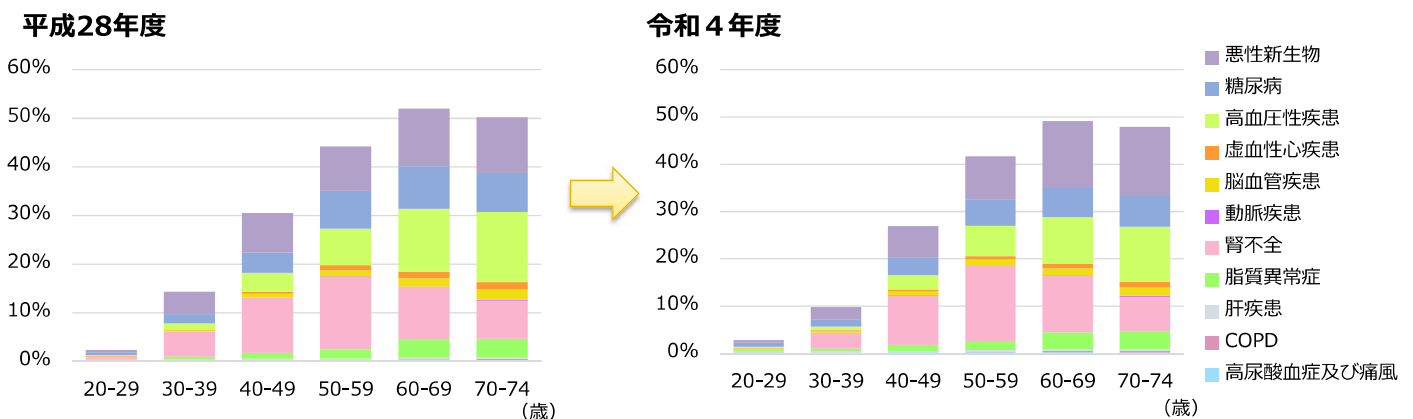
- 入院医療費の割合は**40歳代**から大きく増加し、**70歳代**になると4割を超える。
- **脳血管疾患**は40歳代から、**虚血性心疾患**、**腎不全**は50歳代から増加している。

さいたま市 国民健康保険 保健事業実施計画 (データヘルス計画) 特定健康診査等実施計画

### 3-1-10. 医療費傾向《生活習慣病に関わる医療費(通院)》

#### 医科通院医療費に占める生活習慣病医療費の割合 (年代別)

資料：レセプトデータ (医科) より



	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-74歳
悪性新生物	0.5%	2.6%	6.7%	9.1%	14.1%	14.6%
糖尿病	0.9%	1.5%	3.6%	5.6%	6.2%	6.5%
高血圧性疾患	0.2%	0.8%	3.1%	6.4%	9.8%	11.6%
虚血性心疾患	0.1%	0.1%	0.3%	0.7%	1.0%	1.3%
脳血管疾患	0.3%	0.4%	0.9%	1.2%	1.5%	1.7%
動脈疾患	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%
腎不全	0.1%	3.4%	10.4%	16.0%	11.9%	7.4%
脂質異常症	0.3%	0.6%	1.3%	1.9%	3.6%	3.8%
肝疾患	0.3%	0.2%	0.2%	0.3%	0.4%	0.3%
慢性閉塞性肺疾患 (COPD)	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%	0.3%
高尿酸血症及び痛風	0.1%	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%	0.2%
合計	2.8%	9.9%	26.9%	41.6%	49.0%	47.9%

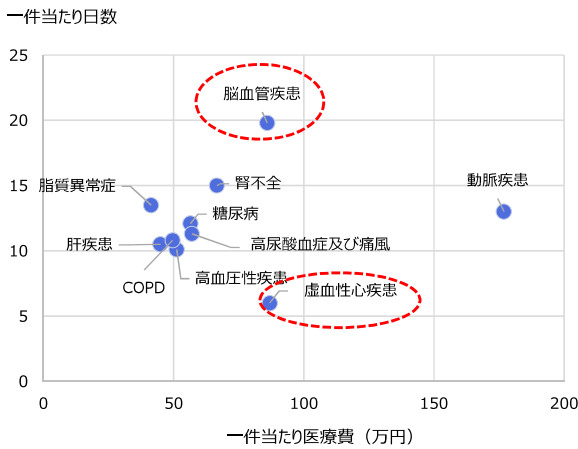
- 通院医療費の割合は**40歳代**から大きく増加し、**60歳代**になると約**5割**となっている。
- **腎不全**は、**40歳代**から急激に増加し、**50歳代**が最も高い。
- **糖尿病**、**高血圧性疾患**は**40歳代**から、**脂質異常症**は**60歳代**から増加している。

さいたま市 国民健康保険 保健事業実施計画 (データヘルス計画) 特定健康診査等実施計画

### 3-1-11. 医療費傾向《生活習慣病に関わる一件当たり医療費と日数(入院)》

#### 一件当たり医療費と日数 (入院)

資料：レセプトデータ(医科) (令和4年度)より



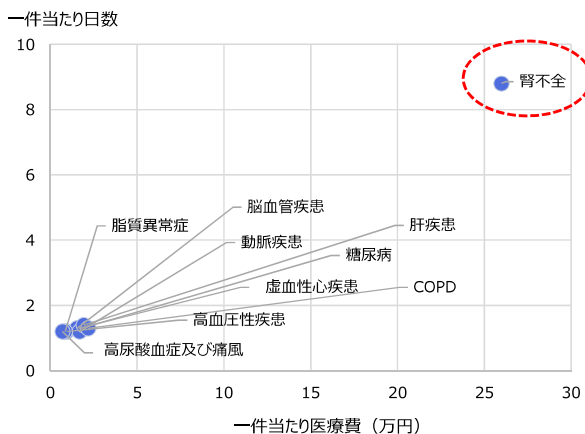
疾病名	医療費(円)	レセプト件数	一件当たり医療費(円)	日数	一日当たり医療費(円)	一件当たり日数
糖尿病	285,334,042	505	565,018	6,113	46,677	12.1
高血圧性疾患	102,906,195	201	511,971	2,021	50,918	10.1
虚血性心疾患	728,407,817	838	869,222	4,992	145,915	6.0
脳血管疾患	2,094,222,130	2,436	859,697	48,130	43,512	19.8
動脈疾患	468,737,269	265	1,768,820	3,456	135,630	13.0
腎不全	459,288,836	689	666,602	10,343	44,406	15.0
脂質異常症	22,745,064	55	413,547	743	30,612	13.5
肝疾患	49,942,252	111	449,930	1,160	43,054	10.5
COPD	31,282,704	63	496,551	681	45,936	10.8
高尿酸血症及び痛風	6,274,558	11	570,414	124	50,601	11.3
合計	4,249,140,867	5,174	821,249	77,763	54,642	15.0

- 虚血性心疾患の一件当たり日数は少ないが、一日当たり医療費が約14.6万円と高いため、医療費は約7.3億円と高い。
- 脳血管疾患はレセプト件数が多く、日数も多いことから医療費は約21億円と一番高い。
- ◆ 平成28年度と比較し、被保険者の減少に伴い、ほとんどの疾患において、レセプト件数、医療費が減少しているが、一件当たり及び一日当たり医療費は高くなっており、医療が高額化している。

### 3-1-12. 医療費傾向《生活習慣病に関わる一件当たり医療費と日数(通院)》

#### 一件当たり医療費と日数 (通院)

資料：レセプトデータ(医科) (令和4年度)より



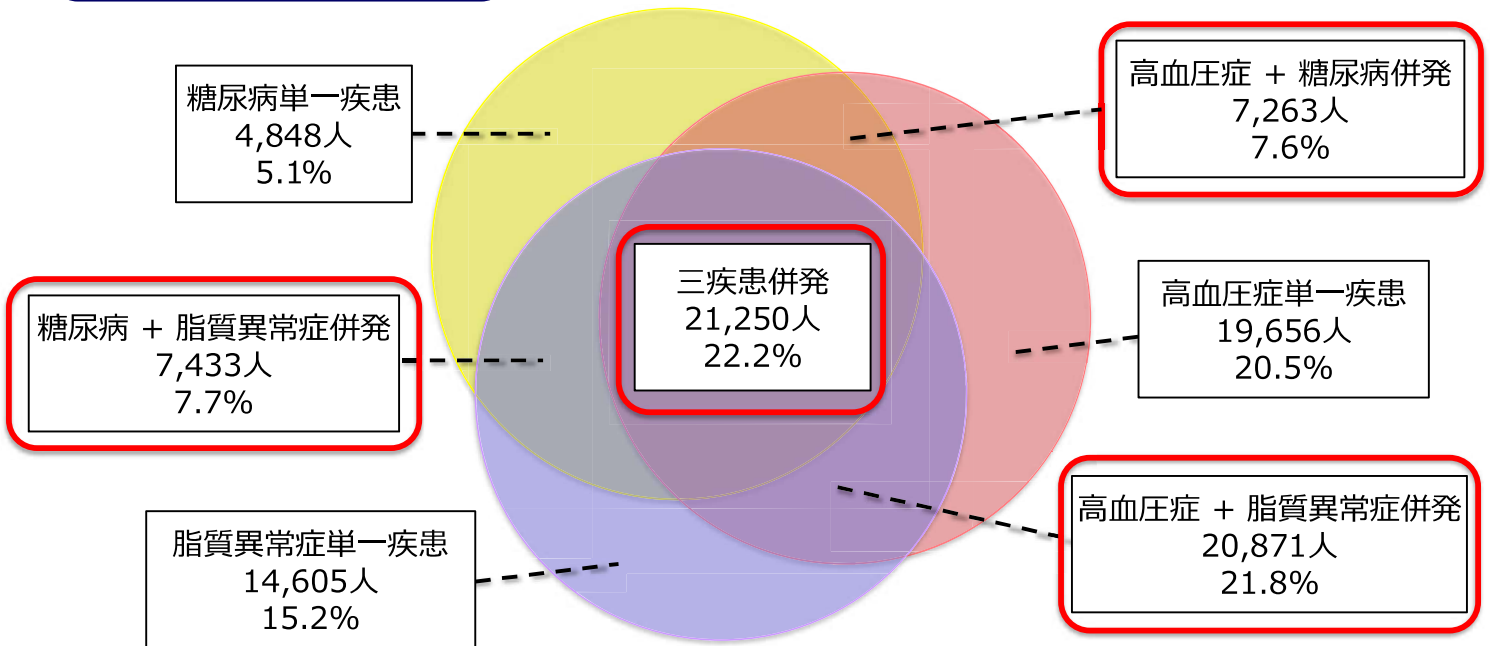
疾病名	医療費(円)	レセプト件数	一件当たり医療費(円)	日数	一日当たり医療費(円)	一件当たり日数
糖尿病	1,686,952,400	95,468	17,670	122,357	13,787	1.3
高血圧性疾患	2,657,216,110	281,849	9,428	337,879	7,864	1.2
虚血性心疾患	286,293,090	17,478	16,380	23,279	12,298	1.3
脳血管疾患	422,699,660	27,433	15,408	35,718	11,834	1.3
動脈疾患	40,453,380	2,398	16,870	2,961	13,662	1.2
腎不全	2,882,749,390	11,091	259,918	97,174	29,666	8.8
脂質異常症	904,447,710	106,061	8,528	129,010	7,011	1.2
肝疾患	98,149,760	5,100	19,245	7,031	13,960	1.4
COPD	52,759,440	2,425	21,756	3,162	16,685	1.3
高尿酸血症及び痛風	73,076,900	10,484	6,970	12,656	5,774	1.2
合計	9,104,797,840	559,787	16,265	771,227	11,806	1.4

- 高血圧性疾患はレセプト件数が多いため、医療費が約26.6億円と高い。
- 糖尿病、脂質異常症はレセプト件数が多いため、医療費が高くなっている。また、腎不全は一件当たり医療費が約26万円、一日当たり医療費が約3万円と非常に高いため、医療費が約29億円となっており、平成28年度と比較してレセプト件数は増加している。
- ◆ 平成28年度との比較では糖尿病、高血圧性疾患、脂質異常症は被保険者の減少により、レセプト件数、医療費が減少している。
- ◆ 腎不全はレセプト件数が増加していることから、患者数の増加が推測される。

### 3-1-13. 医療費傾向《生活習慣病の併発状況》

#### 生活習慣病の併発状況

資料：レセプトデータ（医科）（令和4年度）より

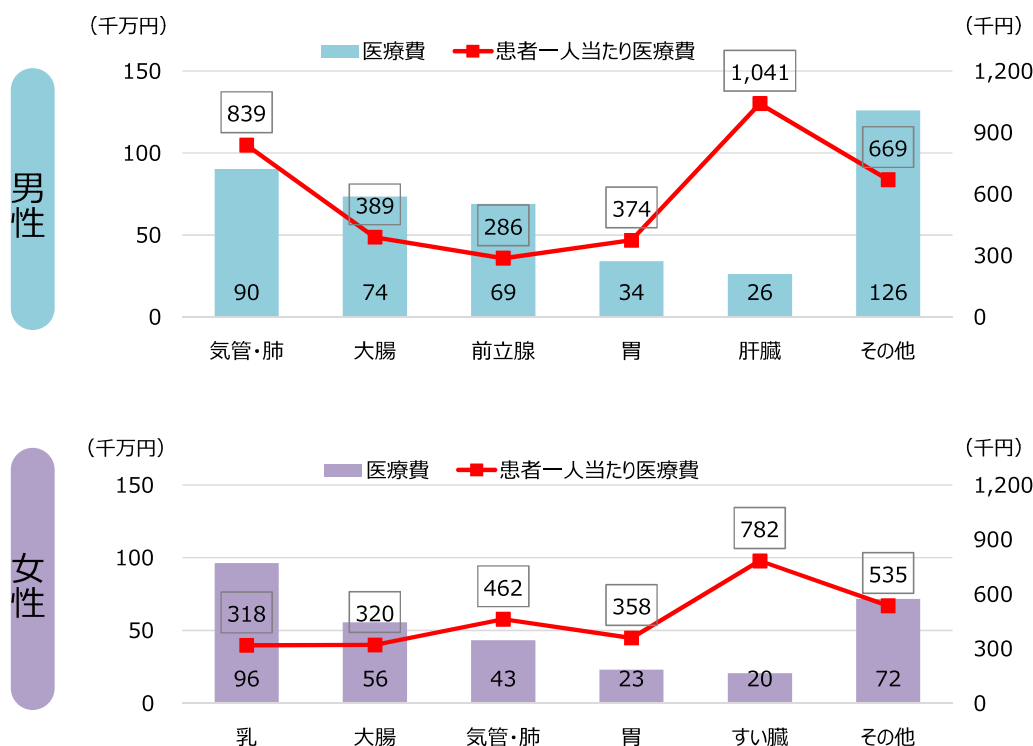


➤ 生活習慣病の代表的な疾患である、高血圧症、脂質異常症、糖尿病では、単一ではなく併発している人が**59.3%**存在しており、三疾患全てを併発している人が**22.2%**存在している。

### 3-1-14. 医療費傾向《悪性新生物(がん)の分析》

#### 悪性新生物（がん）の分析

資料：レセプトデータ（医科）（令和4年度）より



➤ 医療費総額はその他のがん（舌、皮膚など）を除くと、**気管・肺がん**が一番高く、患者一人当たり医療費は**肝臓がん**が一番高い。

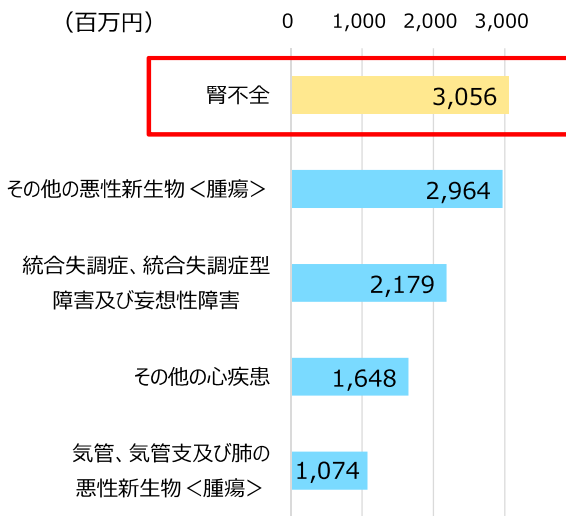
➤ 医療費総額は**乳がん**が一番高く、患者一人当たり医療費は**すい臓がん**が一番高い。



### 3-1-15. 医療費傾向《高額レセプトの年間医療費・生活習慣病医療費における疾病ごとの割合》

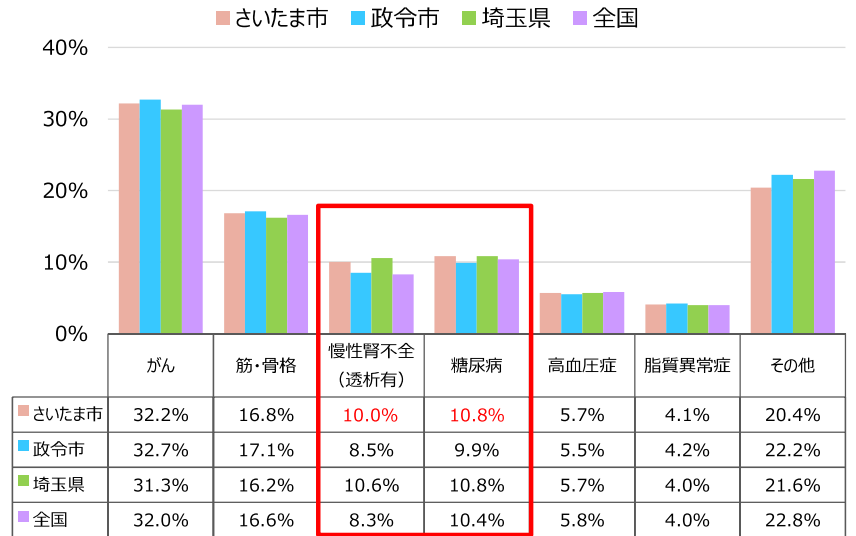
#### 高額レセプトの年間医療費\*1

資料：レセプトデータ（医科）（令和4年度）より



#### 生活習慣病医療費における疾病ごとの割合 \*2

資料：KDB（医科、調剤）（令和4年度）より



- 腎不全の年間医療費が約30.6億円と高い。
- 慢性腎不全（透析有）の割合は埼玉県より低いですが、政令市、全国に比べて高い。
- 糖尿病の割合は政令市、全国に比べて高い。

\*1：1枚当たり3万円以上のレセプトが発生している被保険者の医療費（医科レセプトのみ）

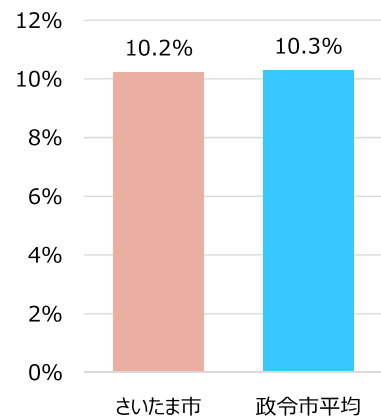
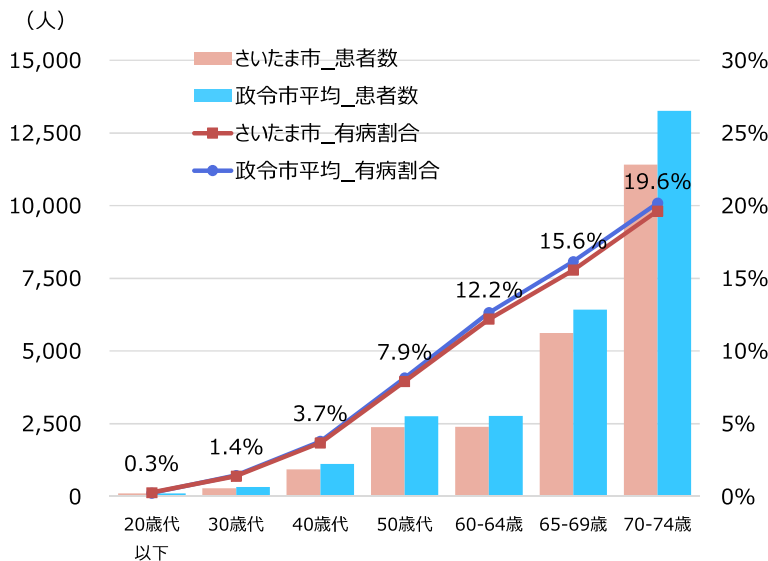
\*2：レセプトに記載されている傷病名のうち、金額の最も高い傷病名であり、実際には複数の疾病の医療費が含まれている可能性がある。

### 3-2-1. 糖尿病患者の状況《糖尿病の患者数と有病割合》

#### 糖尿病の患者数と有病割合

#### 糖尿病の有病割合比較

資料：KDB（厚生労働省様式 様式3-2）（医科、調剤）（令和4年度）  
政令市照会資料より

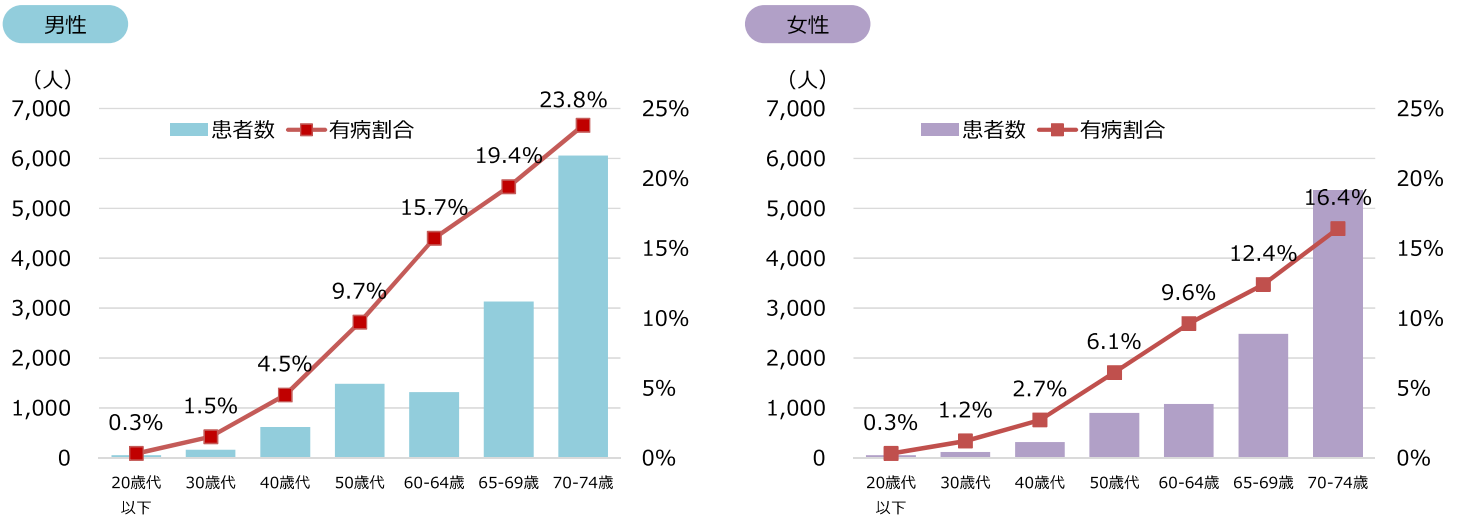


- さいたま市、政令市ともに糖尿病の患者数、有病割合は年齢とともに増加しており、政令市平均とほとんど差はない。

## 3-2-2. 糖尿病患者の状況《糖尿病の患者数と有病割合(性別)》

### 糖尿病の患者数と有病割合(性別)

資料：KDB（厚生労働省様式 様式3-2）（医科、調剤）（令和4年度）より

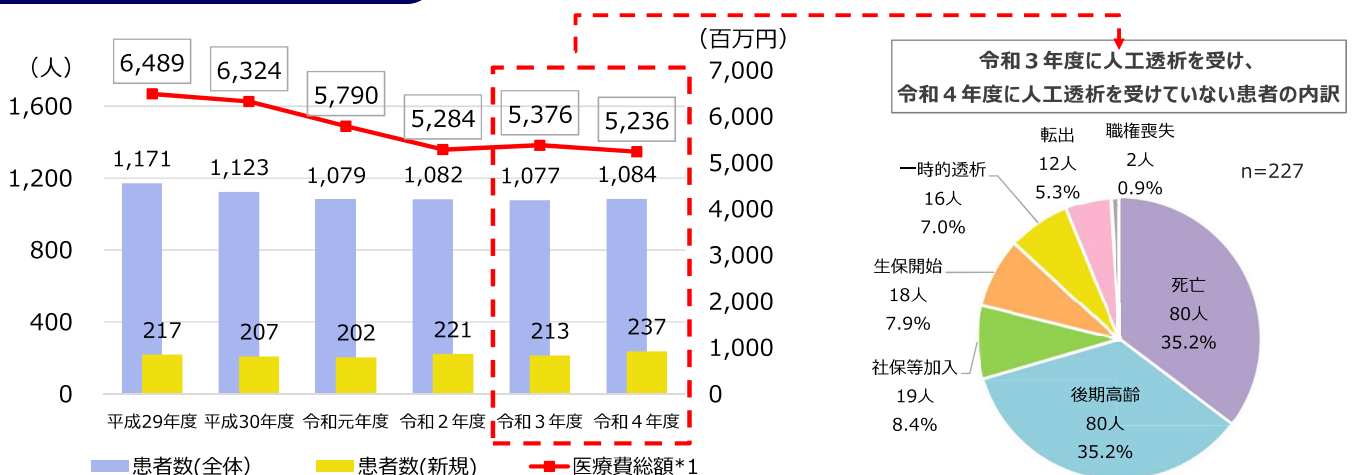


- 糖尿病の患者数は男女とも年齢が上がるにつれ増加し、特に65-69歳から急激に増加している。
- 糖尿病の患者数と有病割合は男性が高い。

## 3-3-1. 人工透析患者の状況

### 人工透析患者数の推移

資料：KDB（厚生労働省様式 様式2-2）（医科、調剤）（平成29年度～令和4年度）レセプトデータ（医科、調剤）（令和4年度）より



- 令和4年度に人工透析を受けている患者数は**1,084人**、医療費総額は年間約**52億4千万円**となっている。患者一人当たり医療費\*2は年間約**577万円**だった。
- 人工透析患者のうち、新規患者は平成29年度から令和元年度は約18%、令和2年度以降は約20%で推移しており、令和4年度では**21.9%**となっている。
- 令和3年度に人工透析を受けて、令和4年度に人工透析を受けていない患者227人の内訳は、**死亡、後期高齢者医療制度への移行がともに35.2%**、**社会保険等への加入が8.4%**と続く。

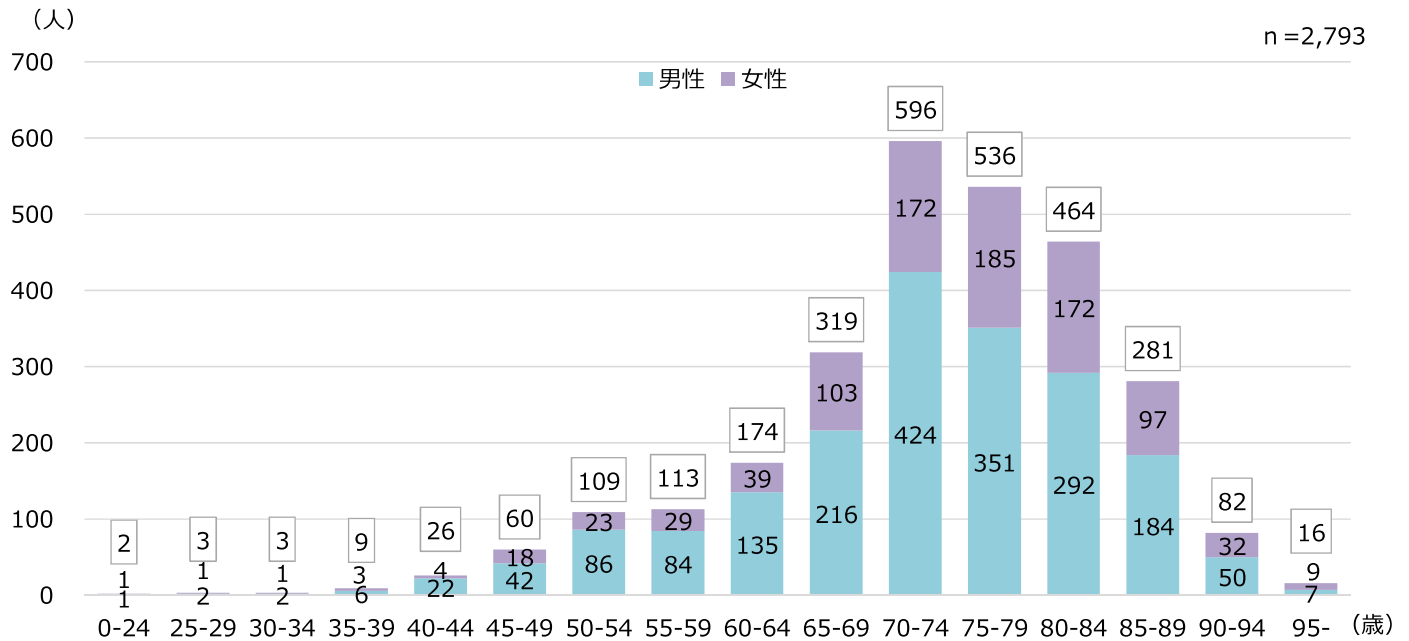
\*1：医療費総額には、医科レセプト、調剤レセプトを含む

\*2：患者一人当たり医療費は、年間を通じて透析をしている者の総医療費 3,801,387,032円 ÷ 年間を通じて透析をしている者の人数 659人

## 3-3-2. 人工透析患者の状況《国保及び後期高齢者医療制度》

### 人工透析患者数（国保及び後期高齢者）

資料：KDB（厚生労働省様式 様式2-2）（医科、調剤）（令和4年度）  
レセプトデータ（医科、調剤）（令和4年度）より  
（厚生労働省様式 様式2-2 には後期高齢者データを含む）

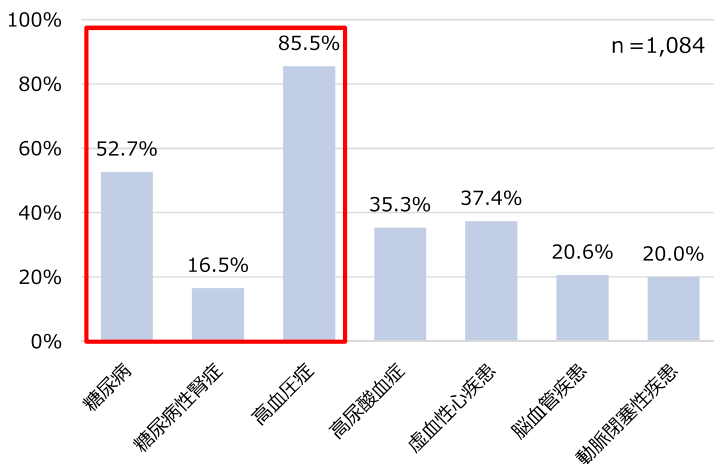


➤ 人工透析患者は年代が上がるにつれ増加しており、70歳代が一番多い。

## 3-4. 人工透析患者の併発疾患

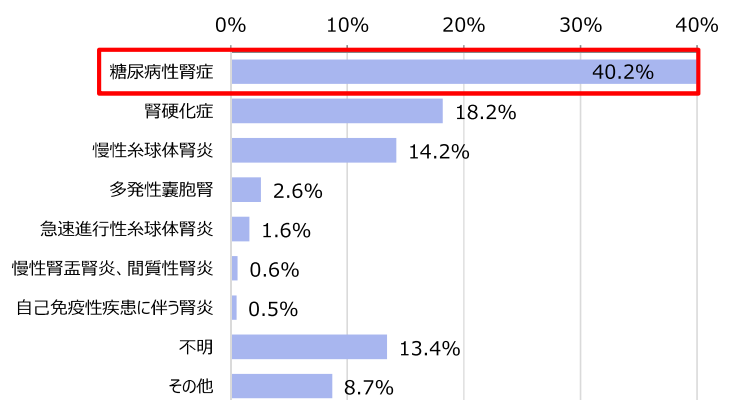
### 人工透析患者の併発疾患

資料：KDB（厚生労働省様式 様式2-2、3-7）（医科、調剤）  
レセプトデータ（令和4年度）より



### 全国における人工透析導入の原因疾患

資料：日本透析医学会「わが国の慢性透析療法の現況  
（2021年12月31日現在）」より



- 人工透析患者の併発疾患では高血圧症、糖尿病の割合が高い。
- 全国的に人工透析導入の原因疾患は糖尿病性腎症の割合が高い。
- ◆ 人工透析患者の約7割が糖尿病を併発しており、糖尿病の重症化（糖尿病性腎症）によって引き起こされている。糖尿病は生活習慣の改善により、重症化遅延が可能であることから、生活習慣の改善が必要である。

### 3-5. 人工透析患者のeGFRと医療費の推移

《人工透析開始年度から5年前のeGFRと医療費の変化》

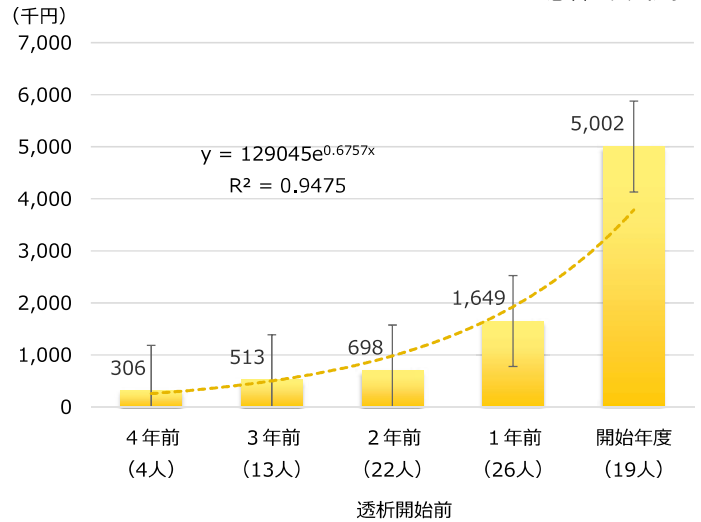
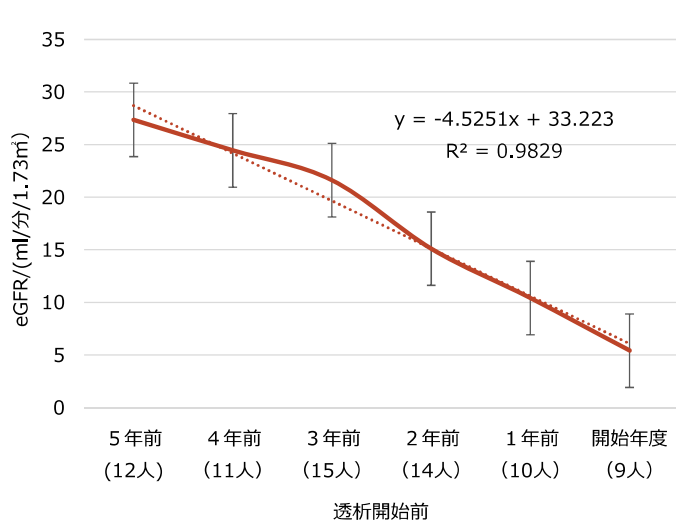
資料：KDB（厚生労働省様式 様式2-2）（医科、調剤）令和5年6月時点より

令和5年度新規人工透析患者における、透析開始年度から開始前4～5年のeGFRと医療費の経年変化

#### eGFR推移（透析開始年度～5年前）

#### 医療費\*推移（透析開始年度～4年前）

\*：患者一人当たり

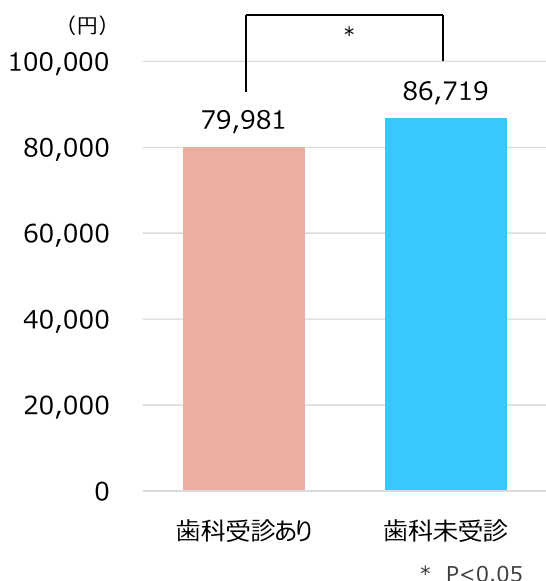


- eGFRでは、30ml/分/1.73m<sup>2</sup>を下回ってから、約5年後に透析開始となっている。
- 透析開始4年前の医療費は約30万円だったが、開始2年前は約70万円、1年前は約160万円となり、透析開始年度は約500万円と、5年間で約17倍となっている。

### 3-6. 生活習慣病医療費と歯科受診状況

#### 生活習慣病医療費と歯科受診状況

資料：レセプトデータ（医科、歯科）（令和4年度）より



	人数 (人)	患者一人当たり生活習慣病医療費 (円)	患者一人当たり生活習慣病医療費 (円)	
			(入院)	(通院)
歯科受診あり	37,900	79,981	671,713	76,254
歯科未受診	30,195	86,719	974,111	77,969

\* P<0.05 P>0.1

- 歯科受診者と未受診者の比較では、一人当たりの生活習慣病医療費は歯科未受診者が高い。
- ◆ 通院医療費は歯科受診の有無による差が小さいが、入院医療費は差が大きいことから、歯科未受診者と生活習慣病重症者には関連があるといえる。

## 健康・医療の現状のまとめ

- 医療費総額は、平成27年度の高額薬剤の影響を除き、国保加入者数の減少に伴い減少していたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大による受診控えのため、減少幅が大きかった。
- 一人当たり医療費は経年で増加していたが、受診控えで減少した令和2年度の反動で令和3年度・令和4年度と大きく増加している。
- 年代が上がるにつれ、一人当たり医療費は増加し、70～74歳は、20～29歳の約5.5倍である。
- 疾病大分類別医療費割合は、新生物が一番高く、循環器疾患、腎尿路生殖器系の疾患と続く。
- 入院医療費における生活習慣病関連疾患が占める割合は、平成28年度の36.5%から33.9%に減少しており、悪性新生物が高く、脳血管疾患、虚血性心疾患と続く。
- 入院医療費の割合は40歳代から大きく増加し、70歳代になると4割を超える。
- 通院医療費における生活習慣病関連疾患が占める割合は、平成28年度の44.1%から41.6%に減少しており、悪性新生物、腎不全、高血圧性疾患、糖尿病と続く。
- 通院医療費の割合は40歳代から大きく増加し、60歳代になると約5割となっている。
- 腎不全の医療費が高額である。
- 生活習慣病医療費における慢性腎不全（透析有）の割合は埼玉県より低いが、政令市、全国に比べて高い。
- 腎不全はレセプト件数が増加していることから、患者数の増加が推測される。
- 令和4年度に人工透析を受けている患者数は1,084人、医療費総額は年間約52億4千万円となっている。また、患者一人当たり医療費は年間約577万円だった。
- 新規人工透析患者の割合は20%前後で推移しており、令和4年度では21.9%となっている。
- 令和3年度に人工透析を受けて、令和4年度に人工透析を受けていない患者227人の内訳は、死亡、後期高齢者医療制度への移行がともに35.2%だった。
- 人工透析開始4年前の医療費は約30万円だったが、透析開始年は約500万円と、5年間で約17倍となっている。
- 人工透析患者の併発疾患では高血圧症、糖尿病の割合が高い。
- 全国における人工透析導入の原因疾患は糖尿病性腎症が約40%と一番高い。
- 国保と後期高齢者の令和4年度の人工透析患者数は2,793人で、70-74歳が一番多い。
- 糖尿病の患者数は男女とも年齢が上がるにつれ増加し、特に65-69歳から急激に増加している。また、有病割合は男性が高い。
- 悪性新生物の医療費は、男性では気管・肺がんが高く、女性では乳がんが高い。また、男性の肝臓がんの一人当たり医療費が高い。
- 歯科受診者と未受診者の比較では、一人当たりの生活習慣病医療費は歯科未受診者が高い。
- 通院医療費は歯科受診の有無による差が小さいが、入院医療費は差が大きいことから、歯科未受診者と生活習慣病重症者には関連があるといえる。